



「赤字を出すぐらいならやめろ」

レーヨン糸の高騰に直面

混乱の昭和20年代から、成長の30年代へ。30年代は、その後の高度成長を予感させるかのように、神武景気の訪れとともに幕を開けた。政府は繊維の設備近代化第1次3カ年計画を打ち出し、6000台の織機更新を目指した。

宮米織物にも新たな転機が訪れた。宮本米吉社長の三男三郎が31年春に大学を卒業、会社の戦列に加わることとなった。三郎は兄次良の勧めで福井大学繊維工学部へ進学、繊維機械の専門知識を磨いていた。

しかし、ここで父米吉が三郎の宮米織物入りに難色を示した。

「兄弟が同じ会社にはいてはきつと喧嘩になる。昔から、二頭立ての馬車は走らないと言う」

会社の将来をおもんばかって、米吉は別に新たな会社を起こすことを決意する。それが、丸井織物の誕生へとつながっていく。

米吉らは早速、鹿島町井田で売りに出されていた織物工場を買収した。だが、織機の傷みが激しく、すぐには使い物にならない。宮米織物の技術者らが連日、整備に汗を流し、ようやく運転できるようになった。

社名は、宮米織物の取引先である産元商社・一村産業の傘下に、丸和織物や丸一繊維など「丸」の付く企業が多く、この「丸」と創業地の井田の

「井」を取って付けた。初代社長には、宮米織物で指揮を執っていた二郎が就いた。次良が名実ともに宮米織物の経営幹部として育ったことと、入社してくる三郎の後見人としての人事であった。

こうして、31年4月、スタートをきった丸井織物株式会社だったが、出鼻をくじくかのような事件が起きる。好景気による需要拡大を見越した投機買いにより、レーヨン糸が高騰を続け、入手さえ困難な状況になったのである。同年6月、いわゆる「糸よこせ運動」が全国規模で展開された。

国が事態の打開に動き、翌月、原糸の緊急放出が行われ、価格は落ち着きを取り戻し始めた。だが、皮肉なことに今度は下落が止まらず、32年6月には過去最安値を更新し、原糸メーカーの収支バランスの悪化による加工賃ダウンのしわ寄せが織物工場を襲った。

現社長の宮本三郎が入社した33年は、そんな「鍋底不況」のさなかだった。三郎は大学を卒業後、織機メーカーの雄である津田駒工業に籍を置き、織機の研究や全国の織物工場を見て回った。その後、丸和織物でも実習経験を積んだ。いわば、技術力と現場を熟知するための武者修行の2年間だった。

丸井グループ社史

丸井織物誕生



初代社長 故 宮本二郎（昭31.4～平3.12）



昭和30年代 丸井織物工場（井田地区）

今も語り草の「24時間操業」

丸井織物は、創業以来、二郎社長の「赤字を出すぐらいなら、そんな会社はやめてしまえ。よそが赤字でも、うちだけは赤字を出さな」という強烈なポリシーが、社風そのものであった。その一端は、今でも語り草の「丸井の24時間操業」のエピソードに凝縮される。そのころの織物工場の操業時間は、大半が朝5時から夜10時までだった。それを、丸井織物では、24時間休むことなく織機を動かし続けた。ウォータージェットルームが登場していない当時とすれば、常識はずれもいいところには違いなかった。

その非常識を可能にした秘密は、二郎自身の骨身を削る猛烈な仕事ぶりにあった。二郎は毎日、午後9時半を過ぎると、妻を自転車の後部座席に寄せ、自宅から約20分離れた工場へ向かった。社員が仕事を終えて帰る午後10時から始業の午前5時までの間、夫婦2人で織機を動かすのである。三郎が入社すると、三郎も妻とともに深夜、人気のない工場で働いた。足元には眠くなった時、顔を洗うための洗面器が置かれていた。

社員も二郎のリーダーシップの下、一生懸命、製品の質向上に努めた。こうして、丸井織物の基盤が固まると、二郎は社長ポストにとどまりながらも、経営の実権を三郎に委ねた。そして、自らは鹿島町久乃木に丸善繊維株式会社を創って出

た。

35年、丸井織物は織機を入れ替え、増設に乗り出す。従来、フレームが木製のため「半木」と呼ばれた古い織機が姿を消し、45台のフライシャトルが工場に並んだ。生産品種も、レーヨンなどの化繊から合繊のナイロン製の防寒衣料・傘地へと次第にシフトしていった。折から、日本経済は、岩戸景気と東京五輪開催をにらんだオリンピック景気で成長速度を早め、繊維業界にも大きな追い風となった。丸井織物も39年に織布工場を新設し、新たに織機7台を増設した。アットホームな雰囲気の中、経営陣と社員が一体となったチャレンジ精神が、丸井織物の新時代の到来を予感させた。

とはいえ、産地に深く根を下ろす産元商社は、傘下の織物会社を序列化し、新参の会社はいくら技術力があっても、なかなかいい仕事が回ってこないケースが多かった。後発のハンディをバネに、丸井織物は産元商社が支配する石川産地に風穴を開けるべくある行動に出た。40年、取引先を創業来の付き合いである一村産業から東京に本社のある堺理に変更したのである。

あの日、あの決断がなかったら、今の丸井は存在しなかったろうとだれもが言う、丸井のルビコンであった。

丸井グループ

宮米織物60年・丸井織物40年の軌跡

昭和31年、織物業者間の過当競争がますます激しくなり、製品価格が急落する一方、原糸価格はメーカーの在庫操作により急騰した。同年、原糸の放出を求める糸よこせ運動が起こり、日絹工業会の指示により原糸がメーカーから緊急放出され、決着したかに見えたが、今度は、原糸価格が急落し始めた。人絹織物振興対策委員会が発足し、原糸価格と賃織り工費の収支バランスを保つため、それぞれの基本価格を設定した。

1956 ▶ 1957

昭和31年

昭和32年

人絹織物振興対策委員会が発促

宮米織物の動き

31年

- 4月 鹿島町井田区内に丸井織物株式会社設立
化繊織物（レーヨン・アセテート）生産
織機台数 F S L 32台
資本金 200万円

丸井織物の動き

石川県の動き

31年

- 1月 雪害のため北陸本線の運転が混乱、企業物の物資不足が深刻化
3月 MROラジオ北陸七尾放送局開局
12月 輪島高校3年の山中毅選手がメルボルンオリンピックに出場。
400m自由形で銀メダルを獲得

32年

- 1月 内灘試射場の使用廃止が決定。
米代表より正式に通告された
5月 小松飛行場米軍基地閉鎖
11月 原水爆禁止国際共同行動県民大会、兼六園広場にて開催
12月 NHK金沢テレビ局が放送開始

日本と世界の動き

31年

- 5月 熊本県水俣市で水俣病発見。病状は「原因不明の中枢神経疾患多発」と報告された
11月 日ソ国交回復の共同宣言。モスクワにて調印
12月 国連総会で日本の国連加盟が可決
鳩山内閣総辞職、石橋湛山内閣成立

32年

- 1月 群馬県の米演習場で葉きょう拾いの農婦が射殺（ジラード事件）
2月 岸信介内閣成立
6月 インフルエンザが全国で猛威
10月 ソ連が人類初の人工衛星「スプートニク1号」の打ち上げに成功
12月 伊豆天城山でピストル心中事件



牛若丸と弁慶の人形を飾った
祭りの山車（鹿島町）



当時の検反風景



メルボルンオリンピックで銀メダルを獲得した山中毅選手の凱旋

●昭和31

ブーム：クイズブーム、ロックンロール、横太郎刈り
流行語：太陽族、一億総白痴化、三種の神器、ケセラセラ
流行歌：ここに幸あり、若いお巡りさん、リンゴ村から

●昭和32年

ブーム：ホッピング、チャームスクール、ロカビリー
流行語：ストレス、何と申しましょうか、グラマー
流行歌：有楽町で逢いましょう、俺は待ってるぜ、東京の
バスガール

丸井グループ

宮米織物60年・丸井織物40年の軌跡

昭和32年下期からの鍋底不況にあえいでいた業界は過剰織機の処理命令を受け、33年、織機の買い上げ指定機関として日本レーヨン織物振興会社を設立した。34年、岩戸景気に入ってから合織の生産拡大が始まり、これにより原糸は軽工業から重工業へと脱皮していった。同年からポリエステルが軌道に乗り始め、石川県産地は本格的な好況を迎えたが、需給バランスを保つ目的で、合織織機の設備制限が発動された。

1958 ▶ 1959

昭和33年

昭和34年

原糸は軽工業から重工業へと脱皮していった

宮米織物の動き

34年 青森県の漁村中心に人材スカウト開始

丸井織物の動き

石川県の動き

33年

- 2月 小松飛行場、米軍より返還
- 5月 電電公社のマイクロエーブが大阪—金沢間に開通、金沢無線通信部が新設された
- 10月 大日川ダムが起工
- 12月 MRO が民間として北陸初のテレビ放送を開始

34年

- 3月 金沢—東京間、大阪間の電話が即時通話可能
- 8月 奥能登に集中豪雨、金沢、小松、加賀、粟津など被害甚大
- 9月 台風15号（伊勢湾台風）が中部地方縦断。県内に大被害をもたらす
- 10月 石川県立美術館が開館
- 11月 北陸鉄道、スト突入。12月には全線48時間スト

日本と世界の動き

33年

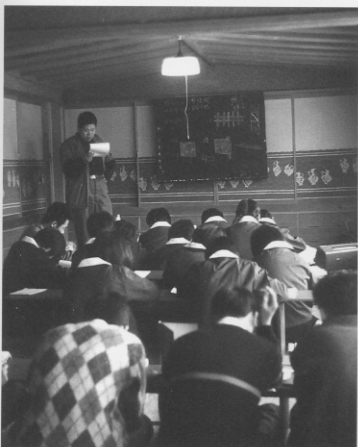
- 3月 富士重工が「スバル 360」を発売。ヒット商品となった
- 4月 長嶋茂雄、読売ジャイアンツ入団。売春防止法が施行
- 10月 フラフープ大流行
- 11月 皇太子明仁親王と正田美智子さんの婚約が正式に発表

34年

- 1月 カストロが指揮するキューバ革命軍がバチスタ政権を打倒（キューバ革命）
- 4月 皇太子明仁親王と正田美智子さんの結婚式挙行
- 9月 伊勢湾台風東海地方に上陸。空前の大被害を受けた同地方では、死者が5,041人にも達した
- 10月 ソ連が宇宙ロケット「ルナ3号」の打ち上げ、月の裏側の撮影に成功



宮米織物織布工場



織物組織の勉強会（宮米織物にて）



自動管巻機

●昭和33年

ブーム：フラフープ、ミステリー、8ミリ

流行語：団地族、神風タクシー、シビれる

流行歌：おーい中村君、星は何でも知っている、泣かないで

●昭和34年

ブーム：マイカー、ミッチーブーム、カミナリ族

流行語：ファニーフェイス、私の選んだ人、タフガイ

流行歌：黒い花びら、南国土佐を後にして、黄色いサクランボ